

国保税

10%値上げにビツクリ!

引き下げて負担軽減を

7月7日、市内の国保加入世帯へ、『2011年度 国民健康保険税納税通知書』が、一斉に発送されました。昨年12月市議会で、国民健康保険の税率改定が日本共産党を除く賛成で可決されたことを受け、町田市では約10%の大幅な値上げとなりました。

「年金額は下がったのになぜ国保税はあがるのか」「子どもの教育費で生活いっばいなのに、こんなに増えたら払いきれない」など、納税通知書を見てあわてて市の窓口にお問い合わせをする人が増加

しています。

日本共産党市議団は、高すぎる国保税を引き下げ、負担軽減策を拡充するよう求めています。

非自発的失業や休廃業、あるいは病気で収入が一定以下に減少し、就労復帰の見込みがないときは、保険税の減免申請できる場合があるのをご相談ください。



モデルケース

- 非正規労働者Aさん 旧但し書き所得200万円(40代、妻・子)
昨年度 221,200円→今年度 243,900円
- 年金生活者Kさん 年金収入230万円(70代、単身)
昨年度 73,800円→今年度 80,500円

わくわくプラザ・健康福祉会館

会議室値上げ条例可決 日本共産党は反対

市民センターなど会議室の値上げと公民館の有料化が3月議会で可決され、8月1日から値上げされています。同時に提案されたわくわくプラザと健康福祉会館の会議室値上げの条例改正は、6月議会の健康福祉常任委員会で継続審査されました。わくわくプラザは高齢者の社会参加を促し、健康福祉会館は市民の健康増進を図る施設として設置されています。値上げになると、利用しにくくなり、本来の施設の役割を果たせなくなります。日本共産党は値上げに反対し、委員会では賛成少数で否決となりましたが、本会議で賛成多数となり10月1日から値上げが実施されることになりました。日本共産党は、市民が気軽に利用でき、社会参加できる施設の在り方を求めてがんばります。

無料 法律相談

お気軽にご相談下さい

8月10日(水)・24日(水)
9月14日(水)・28日(水)

いずれも午後2時から5時まで

場所 町田市役所5階 日本共産党議員団控室

事前に必ず各議員、または
☎042(723)6312にお申し込み下さい。

現庁舎跡地問題は、市民の声を十分に聞いて

新庁舎の建設に伴う現庁舎の跡地利用について検討が行われています。町田市が行った市民アンケート(昨年12月～今年1月実施)では、本庁舎跡地に期待する施設・機能は何かとの問いに、①「保育所、子どもセンター」②「医療施設」③「公園」の順で要望が寄せられました。これらは従来からの市民の声でした。町田市は、いけいけドンドンで新庁舎建設を推進しながら、今年6月、新庁舎建設と連動した中心市街地の大型再開発を描いた「町田市都市計画マスタープラン」を策定しました。新庁舎には230億円の税金を費やし、その後の大型開発にはどれだけの財政が必要か分からないと答弁しています。

また、市議会の庁舎特別委員会では、「公共性の高い複合施設とすべき」という結論が出されましたが、日本共産党は、民間への売却や大型開発につながるようなことはすべきでないと主張しました。現庁舎跡地問題については、市の「計画」を既定方針として拙速に大型開発に進むのではなく、市民の暮らしやまちづくりのあり方について市民の要望を十分に聞いた上での検討が必要だと考えます。



5月25日 仮設の陸前高田市役所で戸羽市長に救援募金を渡す党市議団

6月議会の後の7月4日～7日、私は、日本共産党町田地区委員会が募集した「宮城県石巻市の救援ボランティア」活動に12人の仲間と共に参加しました。党市議団が5月に行った陸前高田市に次ぐ被災地支援活動です。私たちは、石巻市内にある日本共産党震災救援対策センターを拠点に、初日は、全国から届いた救援物資の仕分け作業を。2日目は、個人宅の泥掻きに汗を流しました。7月の猛暑の下で、被災者の大きな悩みはハエの大量発生など衛生問題でした。馴れない力仕事でしたが、異臭を放つヘドロがキレイに撤去されると、住民の方から感謝されました。3日目は、野菜や生活用品など支援物資をトラック一杯に積み込んで、市内3ヶ所の仮設住宅で生活している被災者に届けました。町田からは参加者のガラス工芸職人の方が作った「希望」を刻んだグラスを持参しました。「日本共産党です。東京町田市から希望のグラス」が届きましたよ!と、地元三浦

被災者との心の通い合う支援ボランティア活動に参加

一敏党市議がハンドマイクで呼びかけると、出てきた被災者の方々は両手に物資が入った袋を抱えて「ここまで来てくれて本当にありがたいです」と語っていました。私たちが対話をした被災者からは、「義援金を35万円もらっただけで収入が



7月6日 石巻市で「希望のグラス」を手渡す

なく大変です」「仮設住宅の廻りに水が溜まって困っています」など沢山の声が寄せられ、さっそく地元の市議が解決にあたりました。私は、今回の支援ボランティアに参加して、被災者の悲しみや苦しみに心を寄せ、支援を継続していくことの大切さを学ぶことができました。

党市議 とのむら健一